

2025年 KOZOOM サロン紹介テーマ

「宇宙人 宮沢賢治」



2025-1-28

野口 幹夫

目次

第1章 宇宙人宮沢賢治は世界から愛されている。

1 節 「宮沢賢治と宇宙飛行士」

2 節 世界中で愛されている宮沢賢治

第2章 科学とその応用、そして社会の将来を見通す先見性

第3章 卓越した宗教的信念

第4章 それらを支えた賢治の第6感とスーパー能力

第5章 この3次元空間を飛び出した宇宙人賢治



第1章 宇宙人宮沢賢治は世界から愛されている。

第1節 「宮沢賢治と宇宙飛行士」

銀河鉄道の旅で宇宙旅行を果たした宮沢賢治を仲間のように大切にしておられる日本の宇宙飛行士がおられる。毛利衛さんだ。彼は著書「私の宮沢賢治」を書かれた。野口聡一宇宙飛行士も引退後の活動拠点を賢治の言葉から引用して「未来圏」と名付けた。

毛利衛宇宙飛行士は 「わたしの宮沢賢治 地球生命の未来圏」の中でこう書いておられる。

最初に宇宙飛行をしたとき、私は宮沢賢治の「生徒諸君に寄せる」（「詩ノート」付録）という文章の一部を書き写した小さなノートを船内に持ち込みました。

「新しい時代のコペルニクスよ/余りに重苦しい重力の法則から/この銀河系統を解き放て……。」（〔断章六〕）。

明治の生まれ、農学者で教師の彼が、あたかも無重力状態を経験していたかのように、宇宙の哲学を胸高鳴る私に与えてくれていたのです。

第2節 世界中で愛されている宮沢賢治

賢治は文学作家としては無名のまま亡くなったが、死後時を経るにつれ世界中で愛読者が増えた。特に「銀河鉄道の夜」は、人気が高く、世界中で多くの言語に翻訳されている。以下の12か国の言語だ。

英語 中国語（簡体字・繁体字） 韓国語 フランス語 ドイツ語 ロシア語 スペイン語
イタリア語 ポルトガル語 オランダ語 スウェーデン語 フィンランド語

同時代人の漱石の「吾輩は猫である」の外国語翻訳は 8 か国語にとどまっている。

むしろグローバル化が進んだ現代では村上春樹は 50 か国語に翻訳されているが比較はできない。また賢治をテーマにした国際研究大会が 1996 年 8 月に第 1 回が行われて以来毎年各国の文学研究者が研究の成果を紹介しあっているのだ。

このように時代を経るにつれて有名になり、愛読者を増やしている宮沢賢治とはどういう人か、を次の 3 つの切り口で探っていきたい。

- ① 科学とその応用、そして社会の将来を見通す先見性
- ② 卓越した宗教信念
- ② それらを支えた賢治の第 6 感とスーパー能力と、そこから生まれた魂の対外離脱能力



第2章 科学とその応用技術も、そして社会の将来を見通す先見性

1932年（昭和7年）頃、日本は国を挙げて軍国主義への道を進む中で、科学技術も軍事力強化へと傾斜する中、賢治はその方向に反して、自然災害防止 農業支援のための科学技術を求め、それを語る物語の童話を書いた。その名は「グスコブドリの伝記」。その内容と先見性を紹介したい。その物語の要約は次の通り。

「グスコブドリはイーハトーブの森に暮らす樵の息子として生まれた。3年続いた冷害による飢饉で一家は飢え、両親を失い、妹はさらわれていった。自分の家の敷地に強引に工場を建設した男に労働者として働かされた。その工場も近くの火山噴火の影響で閉鎖され職を失い、再び農業に戻る。その家にあったクーボー大博士の本で勉強する。彼にあこがれて街に出て、大博士の学校に紛れ込む。大博士は個人乗りの小型飛行船を持っていてそれで通勤していた。大博士は一瞬にしてかれの逸材ぶりを認め、彼を火山局のペンネン老技師に紹介してそこで働かせる。

火山局には最新の設備で、イーハトーブの中にある300余の火山に設置された観測装置とつながっている巨大なモニターが中心にある。その変化や前兆はすべて表示されるのだ。

彼はペンネン老技師のもとで、イーハトーブ火山局の技師となり、噴火被害の軽減や人工降雨を利用した施肥などを実現させる。前後して、無事成長し牧場に嫁いで

いた妹との再会も果たすのであった。

ある日 南の海岸にあるサンムトリという火山が噴火の前兆を示していた。この火山の10kmの近郊にはサンムトリ市があり、噴火すれば壊滅的な被害を受ける。そこで火山局は計画する。山の海に向いた方向にボーリングで傷口をつくりガスと溶岩を放出させることしかない

と。早速ペンネン技師とブドリは汽車でサンムトリに行きます。山で実行する場所と作業内容を決め工作部隊を派遣します。クーボー大博士



も飛行船に乗って視察に来て彼らを激励します。工作班のネックは使用する動力電力の不足です。クーボー大博士はそれを見て潮汐発電所の設置計画を練り上げなければならぬと決心します。そしてサンムトリ火山の中腹に穴をあけ安全な方向にガス抜きをするという工作は成功するのです。

それから4年 大博士の計画通り潮汐発電所はイーハトーブの海岸にそって二百も配置され、実行力もつきました。ブドリも昇進して技師心得となって大活躍です。火山の噴煙活動を逆に利用し、硝酸アンモニウムを含む雨を降らせ肥料とする工作をして農民に感謝されます。

中には誤解されて心無い農民から暴力を振るわれて入院する事件もあり それをきっかけに別かれたままになっていた妹との再会を果たすという幸せもありました。

ブドリが 27 歳のとき、イーハトーブはまたしても深刻な冷害に見舞われる気象条件になりました。彼の子供の時の悲劇が再来するのです。ブドリは深く悩み ある案を思いつきます。大クーボ博士にも相談し、同意をえます。それは地球の大気に大量の炭酸ガスを導入すれば 温室効果で冷害を防げるのではないかという案でした。そして大火山のカルボナード火山を人工的に爆発させることにするのです。しかし、クーボ博士の見積もりでは、その実行に際して誰か一人は噴火から逃げるができなかった。犠牲を覚悟したブドリは、彼の才能を高く評価するが故に止めようとするクーボ博士やペンネン老技師を冷静に説得し、最後の一人として火山に残った。ブドリが火山を爆発させることに成功し、冷害は食い止められた。ブドリ 27 歳でその身をささげたのだ。」

この童話は 1932 年（昭和 7 年）に発表された。

ここで賢治が夢として語った科学的技術的な成果を考えれば、それから 100 年現在の人類の力のふがいなさを思い知らされるばかりである。

気象庁の火山観測網は活躍しているが、この火山局のような能動的で火山に働きかける活動はない。

大クーボ博士が自家用に使っている飛行自動車はいまだ実現していない。今年の大阪万博の呼び物として飛ぶ自動車がお目見えすれば喜ばれるといった段階だ。

イーハートブの海岸を取りまく 200 もの潮汐発電所ができたとある、現在の日本はまだ関門海峡で 2011 年度から実証実験を開始した程度だ。

最後の噴火で発生する炭酸ガスを大気圏に導入して地上の冷害被害を防止するというアイデアは、今は不幸にも逆に地球温暖化公害という形で実現している。まだその量が少なくコントロールできる段階であれば、意味があったであろう。

そして何よりも日本列島の生活で避けることのできない火山活動を、被害意識だけでとらえず、それを手なずけ、肥料の雨を降らし冷害の防止に使うなど、逆に活用していこうとする賢治の姿勢に深く学びたい。

第 3 章 卓越した宗教的信念

賢治は幼い時から仏教世界に親しんでいた。当時の明治政府は神道による宗教統一を図ろうとしており、先走った群衆は廃仏毀釈と称して仏教寺院を襲う事件が起きていた時代だ。そんな中で、江戸時代の檀家制度で保護され葬式仏教に堕してしまっていた仏教を再起させるべく、心ある仏教者たちは真剣に仏教の振興策

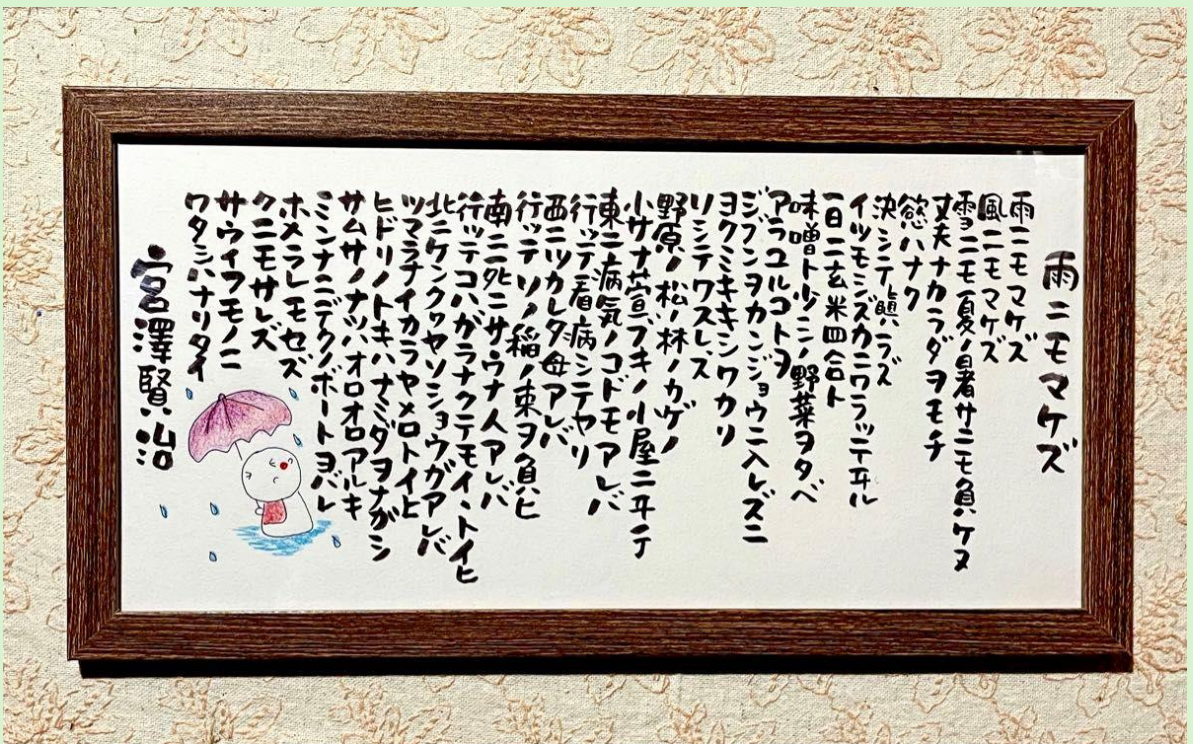
を図り、岩手県にも宗派を超えた仏教の講演会などが開かれる時代であった。賢治の家は浄土真宗（西方浄土に阿弥陀仏がおられ、衆生は「厭離穢土 欣求浄土」の言葉通り この世に期待をもたず、南無阿弥陀仏と唱えることで、死後浄土へと救ってもらうことを願い求める信仰が特徴）であったが、この講演会などで賢治は「妙法蓮華経」の教えを知り、父の反対を押し切ってまで、日蓮宗に強く帰依するようになった。

膨大で難解な「妙法蓮華経」の内容を簡単に要約する。

ここでもお釈迦様が中心だ。しかしここで釈迦牟尼仏はインドで悟りを開かれた歴史上の人物ではもはやない。このお経では、「三千大千世界」の広大な宇宙に「過去・現在・未来」の無限に広がる時間軸を貫いて存在しておられる超越神である。ただし仏教ですから神といわない。久遠のすなわち宇宙の始まりからの永遠の存在でおられる釈迦釈迦牟尼尊でおられる。この娑婆世界は永遠に継続する清らかで楽しい仏国土だ。釈迦牟尼佛はそこに住むすべての人を平等に救おうとしておられる。人がその最後までに 妙法蓮華経の教えを聞くことがあるならば、一人として成仏しない人はいない。また「南無妙法蓮華経」と題目を唱えれば 死んで成仏した人にも会えると説いている。釈迦牟尼仏が治めるこの現世娑婆世界には あの世とこの世も分断はないのだ。

このような偉大な宇宙と仏の慈悲を人々に告げ知らせる使者の役を自ら担うものを「菩薩」と呼び 仏の子となる。賢治は法華経を学び、自分の生き方を菩薩行に見つけた。

賢治の人生の特徴というか太い柱は この菩薩行にあるといえる、病を抱えながら始めた羅須地人協会や、死後発見されて今や代表作になっている「雨にも負けず」の詩はそれを表している。



その時代、宗教団体としての日蓮宗や法華宗でなく、在家のままで法華経を普及推進する団体があった。「国柱会」という。賢治はここを目指して上京し、それに

参加しその指導をうけ、一生得意とする創作活動や、農業指導の世界で法華經の精神を実践布教していくことに決心する。

現代も国柱会は存続しているが、今はさらに強力な団体が現れている。この法華經信仰と日蓮の教えを日本だけでなく世界に宣教して驚くべき成果を上げているのが創価学会だ。仏教思想を実践する集団を 世界各国に生み出し 世界 192 カ国・地域に会員を有し、海外約 300 万人（2023 年 11 月現在）の会員がいる。そのエネルギーはやはり法華經の中から生まれているのだ。

賢治の宗教的信念は、終生彼の生き方を鼓舞し、方向を決めた「菩薩行」であったのだ。

第4章 それらを支えた賢治の第六感とスーパー能力

これまで述べた賢治の科学的展望の豊かさや 宗教的な信念の強固さは 特別な人でなくとも、機会を得て学ぶことができれば誰にでも得ることのできる性質ともいえるが、この章で取り上げる賢治の特徴は、誰にでもある特性ではなく、彼の生来的なもので、賢治の文学が持つ特別の色彩を生み出した原因となった神秘的というよりほかない独自の特性である。

宮沢賢治の研究者の一人でおられる日大芸術学部の山下聖美教授の NHK の「100 分で名著」『集中講義宮沢賢治』に依拠しつつ紹介する。

賢治は鋭い五感を持っていたが、その上にそれを越えた第六感を持っていた。

山下教授は賢治に近い人たちからの証言をもとに、彼の嗅覚、味覚、聴覚、視覚、触覚の五感のどれも独特の鋭さを持っていることに周りも驚く場面があり、それを彼の作品表現の豊かさに結び付いたと語っておられる。その鋭い感受性は「共感覚」へと彼の場合ひろがったのです。

賢治の知人である医師の佐藤孝房さんはこのようにのべている。

「賢治さんは優れた官能の鋭敏さと、まれに見る官能間の融通性を持っていました。目で見たものは耳から聞いたように、耳から聴いたことは目で見たように、自由に感じ得るひとでした。」この共感覚が働く場面の描写は作品のあちこちに発見できる。

更にその上に賢治はこれらを越えた第六感すなわち靈感のようなものを持っていた。その例として、亡くなった妹トシが枕もとにあらわれたとか、山に登り寝ていたら二人の僧侶の亡霊があらわれたとか、自分の乗っているトラックを谷に突き落とすとする「小人」を見たなどの様々なエピソードをあげている。

以上が 山下教授が指摘された感覚の人並でない鋭さである。

私はその人並でない感覚の上に、彼賢治は それらに支えられたスーパー能力 魂の

「体外離脱」を体験していたのではないかと推測している。

それを語るために、まず一般論として「体外離脱」とは何かを紹介しなければならない。それをご理解いただいた上で、賢治の実例に話を戻すことにする。

まず彼は「体外離脱」という言葉は知らない。なぜならその用語が一般に知られるようになるのはアメリカの研究書の発行された 1943 年以降で、ずっと後世のことだからだ。

まず「人間の死とは何か」からはじめなければならぬ。無神論者の多い日本人の多くの方は信じないのだが、人間はその死を迎えた時に、それまで身体内に収まっていた精神体「魂」が、肉体の束縛を離れて天に向かって飛び出す。宇宙に向かって飛翔していく。精神体「魂」は朽ち果てる性質を持つ肉体とは同じ物質ではできていないのだ。

ここにまれなケースだが、死が宣告されて、しばらくして、肉体がよみがえる人たちがいる。その時は、いったん離脱した精神体「魂」は急いで、肉体に戻るといふ現象が起きる。その離脱中に経験した不思議な体験を「臨死体験」という。その例を多数聞き集め、克明に調べた研究が 日本では立花隆の「臨死体験」という本にまとめられた。ベストセラーとなった。アメリカではさらに広範囲で高度な調査をした先行研究があり、立花隆はこのアメリカの研究者ロバートモンローをインタ

一レビューし、その研究のあらましを紹介した。キリスト教徒が主であるアメリカでは 人は死とともに新たな命が神から与えられると信じる人が一般的だ。従って人の死に際して その人の精神体が肉体を離脱していくのは その現れで当然と受けとめる。

その中で驚くべき展開があった。そのロバートモンローが中心となって研究所を設立し、この死に際しての精神体の肉体からの分離離脱という実態を広く調査しただけでなく、さらに死を待たず人間が健康な間に、その精神体が肉体からの離脱しうる原理を探求し、ひろく多くの人たちに体験してもらおうとする試みがおこなわれるようになった。この実行には準備がいきり、それにふさわしい素質もあり、講習会が開かれて、多くの人に参加した。この事実を体験することは、人間の死後を含め、その存在そのものの理解に決定的な影響を与えることになる。生前の体外離脱に一度でも経験をすると、人生観が変わるのだ。楽観的になり、喜びに満ち、何事にも積極的になる。最近の統計ではアメリカ人の25%がそれを体験しているという。

その実践分析の中で、明晰夢（めいせきむ）と体外離脱との間に、直接的な関係があることがわかった。明晰夢とは、睡眠中にみる夢のうち、自分で夢であると自覚しながら見ている夢のことだ。明晰夢の経験者はしばしば、夢の状況を自分の思い

通りに変化させられる。体外離脱体験者は、明晰夢状態が先行して始まっている場合が多いという。

以上が一般論として現在わかっている生前の精神体の「体外離脱」だが、宮沢賢治は明晰夢とともにそれを体験している可能性が高いのだ。彼はこれを他人からおしえられたものではなく、彼の並外れて鋭い感性などの心的条件が、意図した準備をすることなく、ある時ごく自然に体験できたのではないかとおもわれる。一度体験すると繰り返し体験は容易になる。

私が、賢治は体外離脱の経験を書いているのではないかと勝手に思い始めたのは何度も『銀河鉄道の夜』を読み直している時だが、改めてAIを使って有識者の見解を聞いてみると賢治の童話「インドラの網」という作品がまさに体外離脱経験を語っているとの指摘を見つけた。

その「インドラの網」という夢幻的童話を抜粋で紹介する。

そのとき私は大へんひどく疲れていて たしか風と草穂との底に倒れていたのだとおもいます。 その秋風の昏倒の中で 私は私の錫いろの影法師にずいぶん馬鹿ていねいな別れの挨拶をやっていました。

そしてただひとり暗いこけももの敷物を踏んでツェラ高原を歩いて行きました。 白い空が高原の上いっぱい張って高陵産の磁器よりもっと冷たく白いのでした。

稀薄な空気がみんな鳴っていましたが それは多分は白磁器の雲の向うをさびしく渡った日輪が もう高原の西を劃る黒い尖々の山稜の向うに落ちて薄明が来たためにそんなに軋んでいたのだらうとおもいます。

私は魚のようにあえぎながら何べんもあたりを見まわしました。
(私は全体何をたずねてこんな気圏の上の方、きんきん痛む空気の中をあるいているのか。)

そのとき私ははるか向うにまっ白な湖を見たのです。

(水ではないぞ、また曹達や何かの結晶だぞ。いまのうちひどく悦んで欺されたとき力を落しちゃいかないぞ。) 私は自分で自分に言いました。 それでもやっぱり私は急ぎました。

いつの間にかすっかり夜になって空は まるですきとおっていました。素敵に灼きかけられてよく研かれた鋼鉄製の天の野原に銀河の水は音なく流れ、鋼玉の小砂利も光り岸の砂も一つぶずつ数えられたのです。

私はまた足もとの砂を見ましたらその砂粒の中にも黄いろや青や小さな火がちらちらまたたいているのでした。恐らくはそのツェラ高原の過冷却湖畔も天の銀河の一部と思われました。

けれどもこの時は早くも高原の夜は明けるらしかったのです。

その冷たい桔梗色の底光りする空間を一人の天人が翔けているのを私は見ました。

(とうとうまぎれ込んだ、人の世界のツェラ高原の空間から天の空間へふっとまぎれこんだのだ。) 私は胸を躍らせながら斯う思いました。

天人はまっすぐに翔けているのでした。

(一瞬百由旬を飛んでいるぞ。けれども見ろ、少しも動いていない。少しも動かずに移らずに変らずにたしかに一瞬百由旬ずつ翔けている。実にうまい。) 私は斯うつぶやくように考えました。

天人の衣はけむりのようにうすくその瓔珞は味爽の天盤からかすかな光を受けました。

(ははあ、ここは空気の稀薄が殆んど真空に均しいのだ。だからあの繊細な衣のひだをちらっと乱す風もない。) 私はまた思いました。

(こいつはやっぱりおかしいぞ。天の空間は私の感覚のすぐ隣りに居るらしい。みちをあるいて黄金いろの雲母のかけらがだんだんたくさん出て来ればだんだん花崗岩に近づいたなと思うのだ。ほんのまぐれあたりでもあんまり度々になるととうとうそれがほんとなる。きっと私はもう一度この高原で天の世界を感ずることができる。) 私はひとりで斯う思いながらそのまま立っておりました。

ふと私は私の前に三人の天の子供らを見ました。それはみな霜を織ったような羅をつけすきとおる沓をはき私の前の水際に立ってしきりに東の空をのぞみ太陽の昇るのを待っているようでした。その東の空はもう白く燃えていました。私は天の子供らのひだのつけようからそのガンダーラ系統なのを知りました。またそのたしかに于闐大寺の廢趾から発掘された壁画の中の三人だと知りました。私はしずかにそっちへ進み愕かさないようにごく声低く挨拶しました。

「お早う、于闐大寺の壁画の中の子供さんたち。」

三人一緒にこっちを向きました。その瓔珞のかがやきと黒い厳めしい瞳。

私は進みながらまた云いました。

「お早う。于闐大寺の壁画の中の子供さんたち。」

「お前は誰だい。」

右はじの子供がまっすぐに瞬もなく私を見て訊ねました。

「私は于闐大寺を沙の中から掘り出した青木晃というものです。」

「何しに来たんだい。」少しの顔色もうごかさずじっと私の瞳を見ながらその子はまたこう云いました。

「あなたたちと一緒にお日さまをおがみたいと思ってです。」

「そうですか。もうじきです。」三人は向うを向きました。瓔珞は黄や橙や緑の針のようなみじかい光を射、羅は虹のようにひるがえりました。

天の子供らは夢中になってはねあがりまっ青な寂靜印の湖の岸硃砂の上をかけまわりました。そしていきなり私にぶつかりびっくりして飛びのきながら一人が空を指して叫びました。

「ごらん、そら、インドラの網を。」

私は空を見ました。いまはすっかり青ぞらに変わったその天頂から四方の青白い天末までいちめんはられたインドラのスペクトル製の網、その繊維は蜘蛛のより細く、その組織は菌糸より緻密に、透明清澄で黄金でまた青く幾億互に交錯し光って顫えて燃えました。



「ごらん、蒼孔雀を。」さっきの右はじの子供が私と行きすぎるときしずかに斯う云いました。まことに空のインドラの網のむこう、数しらず鳴りわたる天鼓のかなたに空一ぱいの不思議な大きな蒼い孔雀が宝石製の尾ばねをひろげかすかにクウクウ鳴きました。その孔雀はたしかに空には居りました。けれども少しも見えなかったのです。たしかに鳴いておりました。けれども少しも聞えなかったのです。



そして私は本統にもうその三人の天の子供らを見ませんでした。

却って私は草穂と風の中に白く倒れている私のかたちをぼんやり思い出しました。」

始めと終わりに眠り込んでいた自分を発見している。明晰夢から始まり、精神魂の
対外離脱を体験しているというほかない描写だ。

天人や壁画の子供たちとの出会い、そして朝の太陽の出の描写、今宇宙飛行士が4
00k 上空から地球に訪れる朝日の様子とはちょっと違い、大気圏のわずか上空か
ら観察しているようで、日の出を大気圏のいろどりの美しさを「インドラの網」と
表現している。

まさしく体外離脱の経験を書けばこのようなことになるのではないだろうか。銀河
鉄道の夜もこのインドラの網も賢治28歳1924年にかかっている。

「銀河鉄道の夜」も、彼の明晰夢から始まっている。たとえば ジョバンニとカンパ
ネルラが、白鳥駅で下車して 銀河の河原「ブリオシン海岸」の地層発掘作業を見

る場面や、突然アメリカコロラド高原に場面は変わり、インディアンが馬で疾走し、新世界交響曲が聞こえてくるなど、彼がかって体験した懐かしい場面の再現を夢の中で再現している。彼はこの明晰夢の中で精神体 魂の対外離脱を果たしていく。天に向かって銀河鉄道は動き出し、そこにジョバンニは乗っている。彼が見て聞いて体験する「銀河鉄道の夜」だ。それが魂の対外離脱で見える風物だ。それが体外離脱でなければ体験できない特徴が二つある。モンローの研究書にある指摘だ。

その一つは物事の移動のはやさの描写だ。銀河鉄道の列車は石炭をたいていない。彼は「アルコールか電気だろう」とつぶやく。実はこの異次元の世界は、行きたいとの意思をもてば、そのところへ行けるという夢の動力なのだ。

鳥捕りを仕事にする男と一緒に、列車の中で彼がくれる鳥の菓子をいただくが、その鳥捕りが、停車している列車から降りて、銀河の岸辺で鳥を取っているのが見える。次の瞬間彼が岸から一瞬に隣の席に移動して来ているだ。驚くジョバンニに鳥捕りは「この世界は意志すればそこに瞬間移動するのだ」と説明する。それはアメリカの研究でも多くの事例が報告されている。瞬間移動という現象から連想するのは21世紀の科学 量子テレポーテーションだ。

魂の体外離脱があってこそその体験とみなされる第2の証拠は、そこで彼が出会った

人たちがすべて直前に亡くなった死者たちであったことだ。友人のカンパネルラ、その列車に乗ってくる幼い兄弟を連れた学生たちは当時起きた豪華客船タイタニック号沈没の死者たちだ。友達のカンパネルラは、その直前に事故でおぼれそうになった友を助けようとして、逆に彼がおぼれて水死してしまったのだが、ジョバンニは、まさかそんなこととは知らずにいて、どこまでも一緒に行こうと言い合って遊んでいたら 不意に姿を消してしまうのだ。彼がいなくなって、ジョバンニは誰にも聞こえないように窓の外へからだを乗り出して力いっぱいはげしく胸をうって叫びもう喉いっぱい泣き出した。もうそこらがいっぺんにまっくらになったように。

ジョバンニは目を開きました。元の丘の草の中につかれてねむっていたのでした。」このように名作童話『銀河鉄道の夜』の終わりも「目を覚ます」で終わる。そして寝ていた丘を降りて人々が騒いでいるのを見てジョバンニの死を知るのだ。

特別な時間と体験であった。宇宙の名作が生まれた一瞬だ。

第5章 この3次元空間を飛び出した宇宙人賢治

賢治は本質的にダイナミックな宇宙観を持っていた。普通に暮らす世界は縦横高さの3次元の自由度しかない。それは3次元の世界だ。次元でいえば4次元は時間軸

だが、この時間というものは、すべての人に共通でかつ一方的に進むだけで 我々の自由にはできないものだ。しかし賢治が生きていた時代に、アインシュタインが相対性理論の発表があった。1916年のことだ。賢治はいち早くその驚愕の理論を知った。そのうえでこの世界は4次元の時間軸は、絶対的に固定ではなく 相対的なものであると理解したのだ。

『春と修羅』の「序」にはこのような言葉がある。

『すべてのこれらの命題は

心象や時間それ自身の性質として

第四次延長のなかで主張されます』

『農民芸術概論』には次の言葉がある。

『・・・おお朋だちよ、いっしょに正しい力を併せ われらすべての田園とわれらのすべての生活を一つの巨きな第四次元の芸術に創りあげようではないか・・・』

彼なりに解釈した時間軸は、「自由にしうる」と考えた。ここにあげた言葉「第4次元々」は努力目標を入れた時間軸の意味に使っている。しかし時間軸に関していえば、そこから飛び出すことは無理で、それ努力目標を宣言する以上のことはなかった。

しかし賢治は、その後 先の第4章で紹介した体外離脱の実践によって、この3次元空間を飛び出したのだ。しかしそれをうまく表現できなかったのは仕方がない。それを物理的な意味をもつ言葉で表現できるためには、物理学の進歩をあと80年待たなければならなかったのだ。21世紀の物理学は量子力学を経て、すべての量子は単一の「ひも理論」で説明できるというところに来た。そしてそこから得られた結論は、リサ・ランドール博士に従えば、(注1) この世界は5次元でできているというものだ。人間が暮らしている3次元の世界に、4次元の時間軸のほかに、重力が自由になる第5次元が接続しているというものだ。

まさに賢治は体外離脱によって、時間が自由になる4次元の世界 重力が自由になる5次元の世界 を体験したのだ。一瞬の意志による移動ができるこの驚くべき異次元の世界、それを表現するのに適切な5次元という言葉を知らなかった。だからこう書いた。

『ジョバンニは銀河ステーションで銀河鉄道に乗り込んだとき、切符をもらった記憶はなかった。ところが、上着のポケットを探してみると、たたまれた紙切れが見つかった。四つ折りで緑色したハガキぐらいの大きさの紙だ。とりあえず、それを車掌に見せると、こう言われた。

「これは三次空間の方からお持ちになったのですか。」

隣にいた鳥捕りがその切符を見て、驚いたように話し出した。

「おや、こいつは大したもんですぜ。こいつはもう、ほんたうの天上へさへ行ける切符だ。天上どこぢゃない、どこでも勝手に歩ける通行券です。こいつをお持ちになれば、なるほど、これほど不完全な幻想第四次の銀河鉄道なんか、どこまででも行ける筈でさあ、あなた方大したもんですね。」

超ひも理論が1世紀早かったら賢治も5次元の宇宙への飛躍と胸を張って言えたのだが、「三次空間の方からお持ちになった」と消極的で間接的な表現しかできなかったのだ。

ここに100年たって真の姿を現した天才「5次元の世界」に飛び出した宇宙人宮沢賢治の姿をみることができるのだ。

我々も賢治に学べば その心は宇宙人だ。

以上

(注1) 21世紀の初めに生まれた超ひも理論は 究極の素粒子は先に見たように32の異なったつぶの素粒子ではなく、ひもが振動しているだけだという理論だ。その振動の形がさまざまな素粒子に見えるのだという理論だ。

ひもの記述には11の次元が必要である。われわれの住む世界が四次元であるから、7つも余計な次元（余剰次元とよぶ）がある世界に入り込むことになったこと。リサ・ランドールは同僚のラマンとともに、第五次元は巻き上げられることなく、宇宙に存在するという世界モデルを構築した。（1999）

われわれの宇宙全体は、この四次元プレーンに閉じ込められている。

五次元の広がる宇宙空間は劇的に歪んでわれわれの住む四次元プレーンに接している。

われわれすべてが存在する四次元の世界の外に五次元の世界があり、重力を伝えるグラヴィトンはその五次元の世界にはみ出しているというモデルを追及した。歪曲した時空の世界に五次元がある。

われわれすべてが存在する四次元の世界の外に五次元の世界があり、重力を伝えるグラヴィトンはその五次元の世界にはみ出しているというモデルを追及した。歪曲した時空の世界に五次元がある。>

3次元に生きる肉体の束縛を離れた精神体は5次元の世界に解放される、時間と空間を瞬時に動き回れるのだ。

参考にした本

毛利衛 わたしの宮沢賢治 地球生命の未来圏 ソレイユ出版 2021-1-30

NHK100 分で名著宮沢賢治 山下聖美日大教授 2018-8-30

NHK こころの時代宮沢賢治久遠の宇宙に生きる 北川前肇 2023-4-1

桑原啓善著 宮沢賢治の霊の世界 ほんとうの愛と幸福を求めて でくのぼう出版

2001/6/15

清水正「宮沢賢治の宇宙」銀河鉄道の夜の謎 1992-7-7 星雲社

討議 『銀河鉄道の夜』とは何か 入沢康夫 天沢退二郎 青土社 1990/5/10

読んでおきたいベスト集 宮沢賢治 別冊宝島編集部編 2011-7-21

法華経とは何か その思想と背景 植木雅俊 中公新書 2020-11

法華経 現代日本語訳 正木晃 春秋社 2015-5

村尾行一 牧口常三郎の「価値論」を読む 潮出版 1998-11

村尾行一 外から見た創価学会 第三文明社 2003-12

創価学会のめざすもの 川田洋一 第三文明社 1998-9

宮沢賢治の真実 修羅を生きた詩人 今野勉 新潮文庫 R2-4

立花隆 臨死体験 文藝春秋 文春文庫 2000-3

大澤義孝 幽体離脱入門 アールズ出版 2020-4

坂本政道 体外離脱体験 たま出版 2001-3